

ある。

- ・ 情意面の評価が難かしく、それが客観でなくどうしても主観におちいってしまう。

(小高国)

- ・ 「関心・態度」など情意面の評価が難かしく、客観的にと考えるが、主観的になっていると思われる。(小高社)
- ・ 「関心・態度」の評価が非常に主観的になる。(中教)
- ・ 評価の科学的理解が研究不足で、特に、情意面(関心・態度)は、主観的な評価、経験的な評価になりがちである。(小高社)
- ・ 「数学に対する関心・態度」の客観的な評価のあり方は、どのようにすればよいか悩んでいる。(中教)
- ・ 「関心・態度」についての評価基準の設定など、設定のし方そのものに主観がは入り込みやすく、このあたりの客観的判断をどのよ

うにしたらよいか迷っている。(中社)

- ・ 関心・態度(情意面)の評価のし方が、もう一步自信をもってすすめることができないでいる。(小低算)

すなわち、情意面(関心・態度)については、その評価の方法・手段がわからないため、評価が主観的になってしまって、不安であるという悩みである。

- ・ 情意面(関心・態度)の評価について、具体的に数字に出るような評価の方法がほしい。

(中理)

- ・ 情意面(関心・態度)に対する評価の観点や尺度があいまいである。数量化する手ではないものか。(小中理)

そこで、当然のことながら、情意面(関心・態度など)の評価についての科学的・客観的な評定尺度・方法を求める要望が数多くあった。